

2024（令和6）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492601776	事業の開始年月日	令和2年10月1日
		指定年月日	令和2年10月1日
法人名	株式会社リビングプラットフォームケア		
事業所名	ライブラリ東林間		
所在地	(252-0311) 神奈川県相模原市南区 東林間4-39-8		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計 18 名 ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	令和7年2月15日	評価結果 市町村受理日	令和7年5月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・施設の前に公園と緑道が有りますので環境的にとても良い事業所となります。
・レクリエーション担当の職員がいることで、レクリエーションの充実に繋がっております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和7年3月20日	評価機関 評価決定日	令和7年4月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は小田急線「東林間」駅から徒歩8分程の、東に遊歩道、南に公園が隣接する2階建のモダンな建物で、開設9年目2ユニット定員18名のグループホームです。四季の草花を愛でる環境にあり、コンビニエンスストアも徒歩圏で、散歩などもでき、家族、職員にも通いやすい場所にあります。
＜優れている点＞ 法人は創業14年、介護、障がい、保育3分野の事業を展開しています。M&Aによる事業経営拡大を目指し、法人社員1,300名を対象に、明確な経営理念「安心を育て、挑戦を創る」と6つの行動指針、加えて事業所独自の目標を考え、全職員が目標に沿って実践しています。福利厚生面も充実し職員休憩室にエスプレッソマシンを備え、コーヒーを自由に楽しめます。法人代表自ら出向き、頑張っている事業所を激励したり、毎年管理者判断で職員への慰労予算が設けられています。インサイダー、コンプライアンス、ハラスメントなど多岐にわたる研修の充実、悩み事を相談できる専門カウンセラーを備えた体制もあります。職員の負担軽減の為、介護ソフト以外にも業務効率を図るグループウェアなど電子化を進め、持続可能な安定経営に取り組んでいます。経営層と管理者、職員、家族、利用者の意思疎通も良好です。更に、管理栄養士、医療関係者が連携して入居者を一番に考えたケアを行っています。
＜工夫している点＞ レクリエーション専任職員を雇用しています。利用者の散歩支援や貼り絵作品創りで、入居者の潤いの時間に繋がっています。居室は天井に2ヶ所バーが埋められて物干し棒を活用しハンガーを掛けられるようになっており、空間利用と安全対策の工夫をしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ライブラリ東林間
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人のコーポレートミッションを踏まえ全職員で施設目標を考え目標に沿って実践している。	法人ミッション「安心を育て、挑戦を創る」を踏まえ、施設目標「介護のプロとして利用者の立場になって支援する」を2022年6月から毎朝唱和し、実践を続けています。新人職員には法人の研修部チームがスケジュールを管理し、1日リモート研修と別に事業所でOJT研修を実施しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事の参加や地域の方々の受入れなど行っていたが、コロナ禍により行事の減少と重なり参加できていない。一部ボランティアの受入れは行っている。	現在は、コロナ感染症が完全に終息していないため、利用者は相模原市のイベントなどに参加できていません。事業所は地域包括支援センター主催のキャラバンメイトの講師役として、参加の20名ほどの人々へグループホームとは？など入居者の暮らしの様子などを伝える活動をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	相談に来られる方に対し、管理者が認知症への対応、介護サービス利用に関する事の情報提供、自施設の特徴などの説明を行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の影響もあり、人が1箇所に集中して会議などを行う事が難しく、現状は紙面での報告となっている。2024年度からは本格的に再開できるように準備を進めている。	運営推進会議は、2ヶ月ごとに奇数月の月末開催としています。令和6年度はコロナ禍が完全に終息していないため、1～5回迄書面で行っています。質疑は出来ていませんが、入居者や職員状況、事故報告、その他活動報告をまとめ、関係者へ届けています。	運営推進会議により多く地域の意見を取り込む為に、近隣の保育園長、ケアマネジャー、ボランティア代表などに声掛けし、参加者の幅を拡大することが期待されます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	分からないことなどについては、積極的に問い合わせをしている。生活保護の担当者とは連絡を取り合い、協力関係を維持する様にしている。	東林間第一地域包括支援センターとの協力関係が主となっています。福祉基盤課相模原市高齢者福祉施設連絡協議会は、年4回開催され、今後参加する予定です。南生活支援課担当者とは生活保護受給者関連で連絡を取っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	施設内にて身体拘束について研修を実施し、職員への周知を行っている。身体拘束廃止委員会を定期開催している。	研修会は年2回、委員会は年4回開催しています。参加出来なかった職員へ議事録を回覧し、ファイル資料の読み合わせを実施して共有しています。職員都合で入居者への行動制限は身体拘束となる為、声かけや接し方には細心の注意を払っています。3点柵でも条件によっては身体拘束となる事を理解し周知しています。拘束案件の該当はありません。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内にて虐待防止について研修を実施し、職員への周知を行っている。虐待防止委員会を定期開催している。	研修会は身体拘束とは別日に年2回実施しています。委員会は年2回開催しています。虐待防止法の定義やマニュアルを確認し、「虐待防止チェックリスト」を適宜活用して自身の振り返りをしたり、職員同士注意し合える環境を作っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度を利用されている方がいらっしゃるため、日頃のケアや後見人との連携を通じて学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時、重要事項説明、運営規定、契約内容をしっかりと説明し正副にて交付している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族へは、必要な時に必要な内容を手紙、または面会時に伝えている。苦情については窓口を設け随時対応できるようにしている。	家族からの意見は、外部評価の家族アンケートや面会来訪時に確認しています。メールや電話の連絡が多く、一時請求書が届かない問合せがありましたが、請求書を電子化した結果解決しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎朝のミーティング、定期的な面談を行いその都度話を聞いて反映させている。	3ヶ月ごとに施設長が職員と一対一で30分程の個人面談をしています。目標への自己評価について、管理者から年度末に改善すべき点などを説明し、納得して貰う重要な面談となっています。前向きな提案は申し送りノートで全職員へ周知を図っています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	四半期ごとに人事評価を行い、キャリア、能力に見合う給与体系の構築に努めている。	職員休憩室にエスプレッソマシンを備え自由にコーヒーを楽しめます。職員慰労予算も設けられ、施設長の判断で豪華弁当の支給や職員慰労会などの費用負担もあります。法人内にハラスメントや悩み事も相談できる専門カウンセラーを備えたケア体制があります。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修は毎月実施している。外部研修はコロナ禍により機会が減ったため、今年度は、資格取得以外は行っていない。	多岐にわたる研修が年間計画で示され、毎月受講してレポートを提出しています。4段階の社内認定資格制度があり各々スキルの向上に努めています。国家資格取得者へは手当支給もあります。認知症介護基礎研修受講の後に、フロア会議で発表する機会をつくり、自己成長へ繋げています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	エリアミーティングの活用に残っている。その他は、コロナ禍の為にできていない。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	フェイスシート、ケアプランにてじょうほうを共有し入居者様の声に耳を傾け対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に面談を行い、アドバイスやどのように過ごして頂くかをお話して、対応を決めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族、ご入居者様に話を聞き然りと介護計画を立案し、必要な支援を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様にお出来る事、やりたいことを調べ、見極め、一緒に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	相談、報告を行い出来る限り要望に応えている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会、外出は一部許可しており、ご家族様とのコミュニケーションの場も増やしている。また、周辺への散歩などの外出機会を増やしている。	家族の事前許可を得た上で馴染みの人との面会は、予約制で30分程度、居室で行っています。家族と親族の法事に出かける人もいます。田舎からリングが箱で届き事業所の皆で分けています。年末年始の外泊は、高齢化でリスクがあり、ほとんどありません。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士の相性を考えたり、間に職員が入り関係性のフォローをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	気軽に相談できる窓口となる様に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	記録。会議などで情報共有し職員間で話し合いその人の希望やお身を考えて支援を検討している。	日々の会話でしたい事や食べたい物、好きなことなどを聞いています。活動時は「～しませんか」と意向を確認しています。あまり言葉を発せず思いを表出されない人には、質問はシンプルに二者択一など、またその人の能力に応じた活動を提供し、表情や行動から思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	面談時に、ご家族やご本人から得た個人情報をもとめ職員に把握してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日頃の様子を観察し記録に残し現状把握に努めている。医療機関との情報共有行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員会議を通じて話し合いを行っている。また、介護記録情報の活用をしている。	ケアマネジャーはアセスメントや記録、課題分析シートなどから、計画書を作成し、介護員、管理者、家族、医師、看護師、管理栄養士など多職種の意見を聞き、心身面から個別計画書を作成しています。3ヶ月ごとにモニタリングと支援の評価をし、現状の課題に適した支援の計画書を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別介護記録、申し送り、ケア記録を活用し職員間での情報共有を行いケアに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人、家族からの要望があった場合はその都度検討し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	一部ではあるが、ボランティアの受け入れを再開し、入居者様が楽しく暮らせる場を提供している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族様、ご本人様の意向に沿って連携を問っている。	契約時に入居後はかかりつけ医か訪問診療医かを確認しています。訪問診療医は月2回訪問し内診、血液検査などを行い、皮膚科や眼科など専門医にも繋ぎ、適切な医療を受けられる支援をしています。訪問看護師や管理栄養士とも連携し健康管理を行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週の訪問日に合わせて、入居者様の相談事をまとめて報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は案して治療に専念できるよう家族・病院関係者と情報交換し関係づくりに取り組んでいる。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に家族に重度化や終末期について説明している。看取りも行っている。	医師が、高齢による自然な心身の衰えと判断した場合は、家族・医師・管理者が話し合い、日常生活の中で最期を迎える支援の同意を得て、看取り計画書に基づいた支援をしています。何時でも面会可能とし、家族へ細やかな報告をしています。家族・職員・医師などが連携して看取りケアをしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修計画担当者が定期的に研修を企画している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	外部、内部訓練を定期的に計画している。	災害・感染症の事業継続計画や非常災害時マニュアルに基づき、設備点検を兼ねたシミュレーション訓練を実施しています。火元から一番遠い場所への避難誘導、水消火器訓練、入居者を車いすで避難場所へ誘導する訓練などを行っています。災害時こそ地域との協力・連携が必要と感じています。	今後は消防署へ協力を依頼し、自治会との合同訓練の実施や公園の防災倉庫を相互活用するなどが期待されます。訓練実施後の結果報告書を記録に残すことも期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	アセスメント時に過去の経歴や生活歴を把握しご本人にあった声掛けが出来るように職員間で共有している。	個人情報の使用目的と使用範囲などを説明し確認をしています。職員は認知症ケアや接遇などの研修で人格を尊重したケアの周知をしています。ケア時には羞恥心やプライバシーに配慮した対応をし、記録類の保管方法や呼名、声掛けに気を付けています。会議で常に適正なケアについて話し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員会議、介護記録を活用し入居者様の思いを知るように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	声掛けを行い、本人の希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	整容が必要な方にはしっかりと支援し本人の好みに応じた支援をしている。定期的に訪問理美容を呼んでいる。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	主に、食事の片づけを手伝って頂いている。	利用者の「寿司が食べたい」などの希望に応えて提供しています。誕生日には希望するケーキの選択や、移動パン屋で好きなパンを購入しています。おやつレクリエーションではホットケーキ作りなどを楽しめるようにしています。また、テーブル拭きや食器洗い、小鉢の盛り付けなど、得意なことを役割を持って行っています。家族と出かけて外食を楽しんで来ることもあります。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、数量を記録して把握している。また接種量が少ない際にはコノミヤ状態を考えて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後、声掛けをし自らできる方には自立で行ってもらう。その他の方は、介助をしている。必要に応じて訪問歯科の活用をしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	その人に合った排泄パターンを把握し支援している。	排泄表で個別の排泄パターンを把握し、立位が不安定でも2人介助でトイレ誘導をしています。夜間の巡回を強化し、行動や排泄パターンに応じて声掛けをし、トイレでの自立排泄維持の支援をしています。会議では排泄量や状況に応じてパットの種類や排泄形態を検討し、清潔保持と自立排泄に向けて話し合いをしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄記録の把握し、訪問看護師との連携や状況に合わせての対応をしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回以上の入浴を行っている。ご本人様の状況に合わせてタイミングや希望に添えるように対応している。	入浴は1日3名、利用者は週2回以上の入浴を実施しています。利用者の状況や希望に応じて日時の変更や好きな入浴剤の活用などを行っています。個浴槽で車いす対応チェアやスライドボードを使用し、状況によっては2人介助で必ず浴槽内に浸かるようにしています。羞恥心に配慮し、ゆず湯や会話でリラックスした入浴を楽しむ支援をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	いつでも休める様に居室環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の譲歩湯をいつでも確認できるように日頃から情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	フェイスシートを把握しその方に合った支援方法を考えて行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一部外出も再開している。また、周辺公園への散歩や日光浴の機会を増やし気分転換を図っている。	事業所の周囲には広い公園や遊歩道があり、木々や草花が生い茂って季節を感じられます。レクリエーション専任職員が安全でゆったりした散歩の対応をしています。天気の良い日は数回に分け、おしゃべりや季節を楽しみながら散歩の時間を過ごしています。家族協力で買い物や外食を兼ねた外出を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現金の預かり管理は基本的に行っていない。買い物に関してはキーパーソンの方に依頼し、行って頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様の状況に合わせて対応している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	明るすぎない照明を使用している。外の景色が見えるように大きな窓を設置している。	フロアの照明は細かく分かれ、部分照明など灯りの調整をすることができます。ソファが4ヶ所に設置され、好きな場所で寛いでいます。棚下収納庫でフロアは広く、移動スペースの確保ができています。定期的な清掃や外気温を判断しての適切な温度調整、換気、加湿器の設置、テーブル椅子の足のカバーの消音、IH調理器具や食洗機など安全快適なフロア環境を整備しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの位置やソファの位置を配慮している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	火器類以外は出来るだけご本人の使い慣れたものを使用して頂いている。	仏壇やテレビ、椅子など火気類以外の馴染みの物を持ち込み、落ち着ける環境づくりを支援しています。自己管理ができ、家族の了解のもと携帯電話の使用も可能です。毎日の清掃や整理整頓、定期的な寝具交換で清潔保持をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ユニット内にトイレを複数個所設置し、思い立った時に利用できる環境作りを行っている。		

事業所名	ライブラリ東林間
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人のコーポレートミッションを踏まえ全職員で施設目標を考え目標に沿って実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事の参加や地域の方々の受入れなど行っていたが、コロナ禍により行事の減少と重なり参加できていない。一部ボランティアの受入れは行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	相談に来られる方に対し、管理者が認知症への対応、介護サービス利用に関する事の情報提供、自施設の特徴などの説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の影響もあり、人が1箇所に集中して会議などを行う事が難しく、現状は紙面での報告となっている。2024年度からは本格的に再開できるように準備を進めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	分らないことなどについては、積極的に問い合わせをしている。生活保護の担当者とは連絡を取り合い、協力関係を維持する様にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	施設内にて身体拘束について研修を実施し、職員への周知を行っている。身体拘束廃止委員会を定期開催している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内にて虐待防止について研修を実施し、職員への周知を行っている。虐待防止委員会を定期開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度を利用されている方がいらっしゃるため、日頃のケアや後見人との連携を通じて学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時、重要事項説明、運営規定、契約内容をしっかりと説明し正副にて交付している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族へは、必要な時に必要な内容を手紙、または面会時に伝えている。苦情については窓口を設け随時対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎朝のミーティング、定期的な面談を行いその都度話を聞いて反映させている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	四半期ごとに人事評価を行い、キャリア、能力に見合う給与体系の構築に努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修は毎月実施している。外部研修はコロナ禍により機会が減ったため、今年度は、資格取得以外は行っていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	エリアミーティングの活用に留まっている。その他は、コロナ禍の為行えてない。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	フェイスシート、ケアプランにてじょうほうを共有し入居者様の声に耳を傾け対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に面談を行い、アドバイスやどのように過ごして頂くかをお話して、対応を決めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族、ご入居者様に話を聞き然りと介護計画を立案し、必要な支援を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様にお出来る事、やりたいことを調べ、見極め、一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	相談、報告を行い出来る限り要望に応えている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会、外出は一部許可しており、ご家族様とのコミュニケーションの場も増やしている。また、周辺への散歩などの外出機会を増やしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士の相性を考えたり、間に職員が入り関係性のフォローをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	気軽に相談できる窓口となる様に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	記録。会議などで情報共有し職員間で話し合いその人の希望やお身を考えて支援を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	面談時に、ご家族やご本人から得た個人情報をもとめ職員に把握してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日頃の様子を観察し記録に残し現状把握に努めている。医療機関との情報共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員会議を通じて話し合いを行っている。また、介護記録情報の活用をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別介護記録、申し送り、ケア記録を活用し職員間での情報共有を行いケアに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人、家族からの要望があった場合はその都度検討し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	一部ではあるが、ボランティアの受け入れを再開し、入居様が楽しく暮らせる場を提供している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族様、ご本人様の意向に沿って連携を問っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週の訪問日に合わせて、入居者様の相談事をまとめて報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は案して治療に専念できるよう家族・病院関係者と情報交換し関係づくりに取り組んでいる。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に家族に重度化や終末期について説明している。看取りも行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修計画担当者が定期的に研修を企画している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	外部、内部訓練を定期的に計画している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	アセスメント時に過去の経歴や生活歴を把握しご本人にあった声掛けが出来るように職員間で共有している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員会議、介護記録を活用し入居者様の思いを知るように心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	声掛けを行い、本人の希望に沿った支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	整容が必要な方にはしっかりと支援し本人の好みに応じた支援をしている。定期的に訪問理美容を呼んでいる。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	主に、食事の片づけを手伝って頂いている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、数量を記録して把握している。また接種量が少ない際にはコノミヤ状態を考えて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後、声掛けをし自らできる方には自立で行ってもらう。その他の方は、介助をしている。必要に応じて訪問歯科の活用をしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	その人に合った排泄パターンを把握し支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄記録の把握し、訪問看護師との連携や状況に合わせての対応をしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回以上の入浴を行っている。ご本人様の状況に合わせてタイミングや希望に添えるように対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	いつでも休める様に居室環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の譲歩湯をいつでも確認できるように日頃から情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	フェイスシートを把握しその方に合った支援方法を考えて行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一部外出も再開している。また、周辺公園への散歩や日光浴の機会を増やし気分転換を図っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現金の預かり管理は基本的に行っていない。買い物に関してはキーパーソンの方に依頼し、行って頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様の状況に合わせて対応している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	明るすぎない照明を使用している。外の景色が見えるように大きな窓を設置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの位置やソファの位置を配慮している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	火器類以外は出来るだけご本人の使い慣れたものを使用して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ユニット内にトイレを複数個所設置し、思い立った時に利用できる環境作りを行っている。		

2024年度

事業所名ライブラリ東林間
作成日：2025 年 4 月 1 日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1		地域との交流が途切れてしまっている ので、入居者に開かれた提供が出来て いない	地域交流の再構築	認知症カフェへの参加 ボランティア団体の活用を再検討	12ヶ月
2		認知症ケアについての学び、対応力が バラバラになっている	認知症について学びを深める	認知症の研修を開催	6 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月